

## 2024年春季大会領域10 インフォーマルミーティング

出席者数 22 名

文責：押目（連絡委員、QST）

### 1. 代表・副代表・運営委員の人事

次期代表の三原氏（大阪大）、次期副代表の筒井氏（JASRI）より就任挨拶があった。

次期連絡委員、次期運営委員（格子欠陥・ナノ構造）、次々期運営委員が決定した。

#### • 次期連絡委員

- 竹下 聡史（X線・粒子線, KEK）2024/4 ~ 2025/3

#### • 次期運営委員（未定分）

- 橋本 由介（格子欠陥・ナノ構造, 奈良先端大）2024/4 ~ 2025/3 ※プログラム編集のみ

#### • 次々期 分科運営委員

- 桑野 太郎（誘電体, 東工大）2024/10 ~ 2025/10
- 満汐 孝治（X線・粒子線（陽電子）, 産総研）2024/10 ~ 2026/3
- 松浦 弘泰（フォノン, 東大）2024/10 ~ 2025/10
- 小林 亮（格子欠陥・ナノ構造, 名工大）2024/10 ~ 2025/10

### 2. 各賞の推薦依頼状況等

特になし。

### 3. 学生優秀発表賞

学生優秀発表賞 審査委員/受賞候補リストは、2024年3月28日(木)までに物理学会事務局へ提出する。

### 4. 各種データ

概要提出率、若手奨励賞受賞者上限について報告があった。

本会では、領域10は62件申し込みがあった（口頭：55、ポスター：7）。講演件数がおおよそ50件を切ると若手奨励賞受賞者上限が現状の”2”から”1”へ減ってしまう。

### 5. 【審議】新領域ワーキンググループ設置の是非について

新領域ワーキンググループを設置することに対し、領域10から特に反対する意見はなかった。以下、審議の内容を記す。

新領域設定についての主な動きとして、理事会が「新領域設定の手順」を改訂し、領域設定のハードルを2023年10月に下げた。新領域の試行は、来年から年会にて開始される。新領域セッションは既存領域との合同であり、どの領域かを選ぶこと、件数は（合同なので）両方の領域でカウントされることから、既存領域が件数で割を食わないようになる見込みである。WGによる検討は新設を認めるかどうかで、新「新領域設定の手順」の項目2、3間を取り上げ、差し戻しすることとなる。領域委員会が新設を認めると、3年間の試行期間が始まる。

領域10からは、「前回IMで聞いた話と若干違っている。既存領域でセッションを組めるなら合同にするメリットはないのでは。試行期間終了後に新領域として独立し、既存領域が割を食うのではないか。試行期間後の運営について、準備会か理事会かの言質をとっとく必要がある」と運営方針を懸念する意見があった。本件は領域代表が報告することのこと。

一方で、「計算物理を領域 10 へ取り入れるのも可能ではないか」とする意見もあったが、これに対し、新領域は全領域をカバーする前提としているため、難しいだろうという意見があった。

## 新「新領域設定の手順」

- 物理学の研究対象による領域設定に加えて、研究対象を横断する主題による領域設定を認める。
  - 新領域において、十分な数（目安として100件以上）の一般講演が見込まれること。
- 領域委員会において領域新設について検討する。
  0. 提案者は提案書および必要な資料を大会担当理事へ提出する。
  1. 大会担当理事が検討の必要性を認めた場合、領域委員会において領域の新設について検討する。
  2. 領域委員会は、大会担当理事、関係する領域の代表と運営委員、および、委員長が必要とする者を含むワーキンググループを設置して新領域の運用の詳細について検討する。また、必要に応じてインフォーマルミーティング等で会員の意見を聴取する。
  3. 領域委員会は領域の新設についての検討結果を理事会へ報告する。
  4. 理事会は、領域委員会からの報告をもとに領域の新設について審議する。
  5. 理事会で領域の新設が認められた場合、その時点で講演の新規募集が可能な大会から3年間の試行期間を開始する。
  6. 試行期間終了後、領域委員会は新領域の常設化について検討し、その結果を理事会へ報告する。理事会では新領域の常設化を審議し、その可否を決定する。

### 20240315 臨時領域委員会\_説明資料.pdf

#### 6. 【審議】 学生優秀発表賞について

応募資格を満たさない申込が多数あることを議題とした。本会では、申込9件のうち審査対象たり得たのは2件のみであった。7件が審査資格を満たさなかった理由は、うち6件は領域10で過去に1回も発表していないこと、残りの1件はポスター発表であったことにあった。未資格者申請の発生する原因として、申請方法が分かりづらい（募集要項は昨年10月に更新したものの）参入障壁が高い（領域10にて過去に1回以上発表している必要がある）などが考えられる。

本件については、領域10IMにて意見交換した結果を各分科にて持ち帰り議論いただくこととなった。以下、審議の内容を記す。

まず、誘電体分科からは、審査基準緩和（1回目の発表で応募可能とする）の意見が出たことを報告した（例えば領域6では、初めての口頭発表でも審査対象）。木村氏いわく、「領域6の場合、液体は発表が少ないので参入障壁を下げた。あまりに人数が多いと既発表回数でこれでスクリーニングする手もあるが、人が少なければ障壁を下げてでも良いかと」とのことだった。

以下、議論の詳細を記す。

筒井氏「“過去1回以上”とは、応募する大会の直前の大会での発表である必要でない。これを明記すべき」

筒井氏「発表していない会が間にあっても良いと言うことは書いたほうが良い」

西谷氏「池田先生が一度条件を緩和した。前は申込が多く、ある程度スクリーニングされて悪くなかったのでは」

橋本氏「講演申込フォームは全領域共通、その後に申請書があるというのは申込者には分かりづらい。講演申込の時点でわかるようになっていればと。過去に1回発表の条件がある場合、就活と学会がかぶるなどでM2最後の学会ですでに条件を満たせないことがままあり、モチベーションが下がるのでは」

三原氏「他領域ではショートプレゼンをやっているところもあるが、それでも負担が大きい。他分野の先生に点数をつけてもらう領域もある。そのようにすれば1回目でもいい。学振申請書にも書ける」

竹下氏「1回目からOKとしたとき、獲り逃げがあるのではという話が以前あったかと。4年生が視野に入っているか。配属仕立てて申込は厳しいので、自動的に学部生ははじかれるのでは」

是枝氏「領域に居てもらいたいという願いはある（現応募資格）。一方、呼び込みの効果もある（一回で受賞の場合）」

Voegeli 氏「現状では、賞の価値が領域ごとに違っている問題がある。領域 10 で受賞の場合、その後他の領域ではもらえないか」

是枝氏「領域による。2 回目はもらえないところもある」

Voegeli 氏「物理学会共通のルールがあったほうが良いかも」

是枝氏「領域によっては学生はポスター発表しかできないこともある」

Voegeli 氏「そこは仕方がないが、共通化できる場所はあるはず」

大野氏「通常は一人につき何名審査するのか」

是枝氏「前は 10 数人あったが、代表と副代表はマスト、運営委員は自分の分科はマスト。候補者一人につき 4 名程度は審査員がつく」

大野氏「発表 1 件につき審査員が 4 名であるとして、仮に応募者数が 24 名であった場合、運営委員全員と領域代表・副代表が審査をすると、1 人当たり約 9 件の発表を審査することになる」

是枝氏「学生さんは、就活等を考えると 1 回目から審査対象の方がいいか。私としては経緯を知っているのだから、1+1 回でちょうど良いと思うが。限られた領域（含む 10）だけが回数制限を設けているのは申し訳ないとも思う。議論を続けて、メール審議とするのが良いか」

西村氏「回数を減らすのではなく、過去の発表は他の領域も許容するのはアリでは」

竹下氏「全体の発表件数は落ちているか？ 全体が落ちていればオンラインのせいというものもある。次回の現地開催での発表件数も含めて判断すれば良いのでは」

是枝氏「この場合は意見交換ということで、分科に持ち帰り議論にいただければ」

## 7. 【審議】領域分科の存廃について

格子欠陥・ナノ構造分科の存廃を議題とした。分科存廃を議題に挙げた経緯は、格子欠陥・ナノ構造の発表件数が本会で激減したこと（超構造除き 1 件）、次々期どころか次期運営委員さえ候補を探すのに難航していることにある。分科廃止とした場合、領域全体では、領域代表の周期が短縮されてしまう等の影響がある。

本件については、格子欠陥・ナノ構造各分科にて引き続き議論いただくこととなった。

以下、領域 10IM にて審議された内容を記す。

大野氏「格子欠陥・ナノ構造では、2019 年以降、金属学会から物理学会と無関係の研究者をリクルートする習わしがある。運営委員を引き受けたのと同時に日本物理学会に入会したほどで、共著ですら発表したことがない。運営委員の仕事がさっぱりわからず、前任の藪内先生に伺い(既に分科を離脱されている)、ML を回すだけのことは行っている。議論のために簡易掲示板を立てたが、格子欠陥・ナノ構造からは存続させたい意見がひとつも出ていない」

西谷氏「私は残すべきだと思う。今回は小林先生の 1 件だけだが、前は件数が増え出ていた。一番不味かったのは、格子欠陥・ナノ構造の IM が開かれていないこと。コロナ以前はやってきた。コロナ以降も松川先生がご尽力されて合同フォーラムを開催した。これまでは格子欠陥フォーラムを開催していたが。。。どういう経緯で大野先生が選任されたかがわからない。

まずは IM を開いて議論するのが筋では。（次々期運営委員の）小林先生は 2 回め。もし私に来て 2 回目だが仕方がないかと」

筒井氏「フォノン分科廃止の議論と似ている。その際は過去の運営委員に聴取して IM で議論をした。今回も IM を開催して議論をされた方がいいかと。格子欠陥というキーワードがなくなると、科研費等のキーワードが消えてしまうおそれがある。3~5 年をめぐりに、発表件数の目標を決める等するのが良いのでは」

三原氏「まずは経緯を知りたい」

大野氏「次の秋の学会は、金属学会と日程がぶつかっており物理学会の発表は増えないのでは」

三原氏「分科がなくなると辛いとは思う」

木村氏「運営委員を探すのが一番大変かと思う。周りに知り合いがいないとキツイ。周りに聞きやすい状況などがあると、こうはならなかったのではないか」

橋本氏「運営委員をやると、格子欠陥フォーラムの運営をやることになるので後から知らされる。これは大きなストレスになっている。物理学会とは関係のない業務をやる理由はないので、今回は拒否した。フォーラムについては、別で指名されるべきかと」

三澤氏「フォノン分科も研究者があまり残っていない。セッションも格子欠陥・ナノ構造に組み込んでもらっていた。分科統合も手かと」

大野氏「超秩序構造が2024年で終わってしまうと、それ以降は人がいなくなるのでは。前回物理学会の格子欠陥・ナノ構造で発表される人のメールアドレスが、格子欠陥・ナノ構造MLに1件も登録されていない。発表されるなら、ML登録されているべきでは」

是枝氏「誘電体分科でも議論した。学生優秀発表賞への影響、若手奨励賞への影響、代表のサイクル まずは、分科の中や三原先生と意見交換・議論していただく。分科を無くすとなると、領域委員会マターとなりかなり大事」

筒井氏「かつての運営委員が、格子欠陥・ナノ構造をどうするかのお考えを大野先生へ連絡するように依頼することは可能」

小林氏「学生をなるべく送り込むようにしている。シミュレーション屋なので材料や対象がいろいろ変わるが、なんだかんだで材料の欠陥をやることが多く、意見交換とのために来ている。運営に深く関わろうとしていなかったこともあり、分科のことはよくわからない。それは良くなかった。例えば、誘電体の枠組みとX線・粒子線の枠組みとでは範囲が違う。格子欠陥やフォノンもトピックがブロード。ゆるく人が出入りする分野かと。シミュレーションと似ている。格子欠陥がなくなると、だいぶ枠組みが変わってしまう。すぐには無くさない方がいいかと。分科を跨いでの議論が必要かと」

三原氏「可能なら、フォノンと格子欠陥の合同IMを開催した方が良いか」

大野氏「対面かつオンラインでお願いします」

浅野氏「私も領域10で全く発表していないのに呼ばれた。運営委員の選出の時期について同じ意見。次の選任を決める時期がかなり早い。ネットワークがないのに探すのは大変。選出前に、過去の方とやりとりする機会がほしい」

是枝氏「これは事務局マターかと。催促はされるが待つてはいただける」

大野氏「格子欠陥の皆様は、まわりの先生方に分科の現状をお知らせいただきたい」

## 8. その他

### 8.1. 講演キーワードに関する提案伺い

誘電体分科からは「カイラルフォノン、カイラル構造」が提案されたと報告があった。

以下、審議内容を記す。

是枝氏「誘電体分科からの提案は「カイラルフォノン、カイラル構造」。もしあればこの場で、なければ各分科で募っていただけたらと」

筒井氏「たとえば、カイラルフォノンの場合、領域内でできる工夫、合同セッションを作るとかすれば良いのかと」

是枝氏「そう思う。カイラルは磁性でさかんに発表されており、そういう合同セッションに呼び込むのが良いのでは。キーワード変更のプロセス確認等が必要。早ければ次の領域委員会で挙げられるか」

### 8.1. シンポジウム提案

シンポジウム提案が、木村氏（名工大）からあった。題目（案）は「超秩序構造が拓く物性物理学」で、領域10主体（6、7、12合同）として開催が検討されている。次の領域委員会で提案されるとのことであった。